

「全鍍連」 2022年 2月号 巻頭言

全鍍連 常任理事 穴戸 隆司(株)旭電化 代表取締役社長)

「逆境の時こそ、力を尽くす」



2021年5月の東北・北海道表面処理工業組合通常総会にて理事長を拝命いたしました(株)旭電化の穴戸隆司と申します。今回、業界に対する考え、時事問題という大層なお題をいただき、恐縮しております。

東北・北海道表面処理工業組合は、1997年4月に山形、宮城、福島の東北3県のめっき組合を統合し、未組織であった青森、岩手、秋田を加えて発足、2010年の北海道組合の解散とともに北海道の会員も加え、1道6県の広大な地域の組合組織として活動しているところです。初代理事長に山形・スズキハイテック(株)の鈴木喜代壽氏、2代目理事長に宮城・(株)ケディカの三浦修市氏、3代目に宮城・東邦メッキ(株)の島田博雄氏、4代目に山形・(株)三ツ矢の草間誠一郎氏、そして私が5代目として初めて福島からの就任となりました。浅学非才ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

現在、世界は大変革の時代を迎えています。新型コロナウイルスが発生してから2年が経過した現在、変異株が猛威を振るい、国単位のロックダウン、身の回りではステイホームなど社会を閉ざす反面、インターネットを始めとするIoTの飛躍的な進化を加速させ、またSDGs(持続可能な開発目標)を旗頭とした環境にやさしい社会を目指し、自動車産業はCASE(コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化)を推進し、産業革命さながらの様相を見せており、我々めっき業界も先を見据えた変化を余儀なくされて来ています。皆さんも経営体質の強化や技術の革新、省エネ化、人材育成など日々努力をされていることでしょう。マーケットも海外に突破口を見出す、国内でシェアを拡大する、技術や品質をフラッシュアップさせてブランドロイヤリティを持つなど自企業に合った個々の方針を取られていることと思います。ただ、この困難期を一企業で乗り越えて行く事は難しく、この時代だからこそ全国鍍金工業組合という共同体を通して情報を共有し、企業間の連携を深め対応していくことが必要ではないでしょうか？

最近頂いたポスターに「ハイテック、めっきがなければローテック」というフレーズがありました。めっきは日本の産業に欠かせない基盤技術です。誇りを持って、そして敢然と次の時代へ飛躍する時です。今、TVで渋沢栄一の「青天を衝け」が放映されていますが、翁の言葉に「逆境に処しては、断じて行え。決して惑うてはならない。逆境の時こそ、力を尽くす。」という言葉があります。今が、その時かと思います。

我々は、先代から引き継いだ歴史の継承と会社経営という利益を出し、持続性を保つために地道な技術の積み上げと常識にとらわれない変化を実践することが必要です。取り巻く環境は、半導体を含む部品調達の困難、資材・原油の

値上がり、人材不足など3重苦、4重苦の時ですが、めっき業界の発展が各会員各社の発展に寄与することを願っております。

最後に全国鍍金工業組合という共同体と共に会員皆様の企業がさらに発展することを祈念して締めくりとさせていただきます。